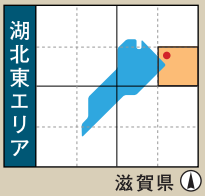
史跡
国指定

小谷城跡（おだにじょうあと）

湖北町郡上ほか　昭和12年4月17日指定



小谷城は、戦国大名として湖北地方を支配した、浅井氏三代の居城です。六角氏や織田信長の度々の攻撃にも耐えた堅固な城郭でしたが、天正元年（1573）に遂に落城。城は羽柴秀吉に与えられます。しかし、秀吉は居城を長浜に移したため、小谷城は廃城となります。この時、小谷城下町も全て長浜に移り、新しい長浜城下町の中心となりました。

当時のできごと	
1521年	足利義晴　将軍となる
1570年	信長上洛を果たす
1573年	武田信玄没す

小谷城の構造

小谷城の築城は、大永元年(1521）の頃と推定されています。小谷城は標高495mの小谷山山頂に築かれた大嶽（おおずく）郭を中心として、南東に張り出した尾根上が本城域となり、北から、山王丸、小丸、京極丸、中丸、本丸が連続します。これらの郭は、要所に石垣を設け、礎石建の建物を配しており、主に儀礼の場として使われていたと考えられます。これに対して南西に張り出した尾根上には、土塁と空堀で囲まれた山崎丸、福寿丸が配されています。これらの郭は非常時に使われる郭で、浅井氏と同盟した朝倉氏の築城技術が見られます。この二つの尾根に囲まれた谷（清水谷）には浅井氏を始め、有力家臣達が日常の生活を送る屋敷や、浅井氏の菩提寺などがありました。また、清水谷の前面には城下町が広がっていたと考えられます。

織田信長の小谷攻め

織田信長の天下統一のためには、畿内の平定が不可欠であり、その足がかりとして、そして京への道を確保するためにも、近江を掌中に納める必要がありました。そのためには、美濃と近江の境である湖北の制圧は不可欠です。信長は、まず浅井氏と連合し、北陸からの脅威である朝倉氏を討ち、統一への道を確実なものとしようとしますが、その矢先に、突然、浅井長政は朝倉氏と連合し、信長へ反旗を翻します。これが引き金となり、元亀元年（1570）姉川の戦いが引き起こされます。この後、天正元年（1573）信長の総攻撃を受け、落城するまでの間、浅井氏は各地の反信長勢力と呼応し、抵抗を続けます。この間の信長との抗争を「志賀陣（しがのじん）」あるいは「元亀争乱」と呼びます。比叡山の焼き討ちも、この一連の戦いの中の出来事です。



大広間・本丸



元亀3年銘のある柿経



小谷城遠景



百間石垣

［浅井氏の家系］

浅井氏は信長によって滅ぼされますが、浅井長政と信長の妹の市との間に生まれた3人の娘は、長女は秀吉の側室（淀君）に、次女は京極高次の妻に、三女は徳川二代将軍徳川秀忠の妻となり、それぞれが数奇な運命をたどることになります。

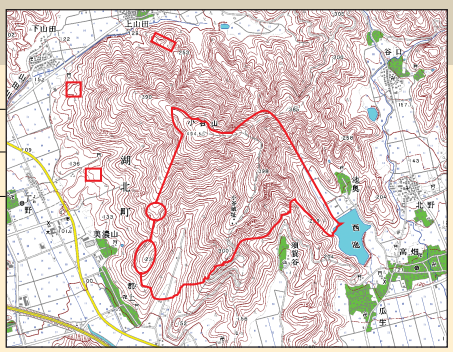
関連する文化財

横山城跡（長浜市）	姉川の合戦における攻防の中心となった城。秀吉が初めて城持ちとなった城でもある
虎御前山城跡（虎姫町）	小谷合戦の主要城郭。小谷城の前面に位置する
丁野山城跡（湖北町）	小谷合戦における越前方の城郭
中島城跡（湖北町）	小谷合戦における越前方の城郭
山本山城跡（湖北町）	浅見氏の居城であったが浅井氏の家臣阿閉氏の居城となる。山本山城の開城が小谷落城につながる
磯野山城跡（高月町）	浅井氏の家臣磯野氏の居城。県内の城郭では古態をとどめる
長比城跡（山東町）	小谷合戦において中山道を封鎖するために造られた城郭

もっと深く知りたい

湖北町教育委員会	☎0749-78-1001	東浅井郡湖北町速水2745
安土城考古博物館	☎0748-46-2424	蒲生郡安土町下豊浦6678
福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館	☎0776-41-2301	福井市安波賀町4-10

小谷城跡へのアクセス　JR北陸本線　河毛駅下車



【参考文献】〔図説日本の史跡〕同朋舎　〔日本城郭体系〕新人物往来社

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月